

1 令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果について（実施日：令和 7 年 4 月 14 日から 17 日）

- ①教科調査においては、各都道府県の平均正答率の分布では、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかったものの、全学年全教科で全国平均を下回った。
- ②質問調査では、児童生徒の自己肯定感が高まってきており、いくつかの項目で調査開始以降、最も高い値となった。一方で、授業の内容について「よくわかる」と回答した児童生徒の割合は前年度を下回り、課題がある。1年間で学習した内容が児童生徒に身に付いているかを点検するための「学年末単元到達度確認問題」を実施し、各学校での授業改善を推進した。

2 令和 8 年度取組について

（1）「学びの改革推進プラン」の推進（別紙 1）

重点目標を「自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成」として、3つの取組の方向性「基礎的・基本的な内容の理解・習得及び活用する資質・能力の育成」「生涯を通じて主体的に学び続けるために必要な資質・能力の育成」「教育データの利活用」を示し、今後の具体的な学力向上施策に取り組んでいく。

取組 1 基礎的・基本的な内容の理解・習得及び活用する資質・能力の育成

これまで、学習指導要領が示す3つの資質・能力のうち「思考力、判断力、表現力等」に注力して事業を展開してきたが、全国学調の結果を踏まえて「知識及び技能」の習得も意識した授業改善及び教員の指導力向上に取り組んでいく。

○子どもが伸びる授業づくり

県内の小学校国語、算数の授業づくりの拠点とする学校を指定し、重点的な支援を行い、学習指導要領に示されている資質・能力を育成する授業づくりを推進する（事業校は令和 7 年度からの継続指定）。

＜事業校における研究発表会の実施＞

- ・国語：鳥取市立稲葉山小学校（10月5日）、米子市立福生西小学校（11月20日）
 - ・算数：鳥取市立倉田小学校（11月6日）、倉吉市立社小学校（10月2日）
- 米子市立五千石小学校（11月26日）

取組 2 生涯を通じて主体的に学び続けるために必要な資質・能力の育成

学力向上に向けて、教師の指導力の向上を図ると同時に、子どもが自ら学ぶ力を育成することが重要である。次期学習指導要領改訂に向けて議論されている、教師が教える授業から、「子どもが学び取る」「子どもが学び方を学ぶ」授業（探究的な学びや自由進度学習等）への新しい授業観の転換を図るため、様々な取組にチャレンジする学校を重点的に支援し、その好事例を全県に広める。

○とっとりサキドリ研究校推進事業

・教育課程柔軟化サキドリ研究校

次期学習指導要領において導入予定の「調整授業時数制度」を先行実践する研究校を指定し、学校や地域の実態を踏まえ、多様な個性や特性、背景を有する子どもたちを包摂する柔軟な教育課程を促進し、その実践内容等を全県に発信する。

・チーム担任制・教科担任制サキドリ研究校

「チーム担任制及び教科担任制推進校」を指定し、学級担任間の交換授業や複数教員による学級運営など効果的な指導の推進を支援するとともに、その実践等について全県に発信する。

・子どもが主体的に学ぶ授業づくり事業

生涯を通じて主体的に学び続けるために必要な資質・能力を育成するため、子どもが自ら学び取る授業づくりにチャレンジする学校に対し、講師派遣や先進校視察等を通して支援する。

・生成 AI 等を活用した英語力向上事業

英作文の添削や教材作成等、英語の授業づくりに生成 AI 等を活用する学校をモデル校として指定し、好事例を発信する。また、生徒自身にも英会話や英作文等に生成 AI 等を活用させることで英語力の向上を図るとともに、主体的に英語学習に取り組む態度の育成を図る。

・探究的な学びの推進事業

PBL（課題解決型学習）によるふるさとキャリア教育に取り組む推進協力校を指定し、学校・地域の実態を踏まえ指導計画等を基にした研究実践を広く発信し、研究を進め、PBLを踏まえた学習の充実を図る。

取組 3 教育データの利活用

全ての子ども一人一人の力を最大限引き出すためには、教育データを利活用していくことが重要である。そのため、とっとり学力・学習状況調査や英検 IBA など各種調査等から得られる教育データを最大限活用して、「一人一人の伸び」を把握し、確実に力を付ける授業改善を進め、きめ細かい支援を行う。

○令和 8 年度とっとり学力・学習状況調査の実施

- ・実施期間：5月18日～6月12日
- ・結果返却：各学校（8月25日）、市町村教育委員会（9月18日）、県教育委員会（9月25日）
- ・結果活用研修会：8月28日、31日
- ・分析方法説明会、学校マネジメント研修会：秋頃

(2) とっとりの「学ぶ力」パワーアップ総合プロジェクト事業（別紙2）

「学習指導体制の構築」、「教員の指導力向上」、「基礎学力の定着」の3つの視点で、個々の教員の力量を伸ばしつつ、組織的に学力を向上させていく取組を展開。

①学校の組織・指導体制の構築

○小学校中学年以上における「教科担任制」への転換促進

○チーム担任制等を活用した指導体制再構築

新卒採用者割合の増加を踏まえ、「学級編成の弾力的運用制度」（※）とセットで、チーム担任制・複数担任制を積極的に導入し、指導経験や見識を有する教員を中心に、児童生徒に対し、学力向上につながる環境を担保する。

※国の学級編制基準を超えない範囲で、市町村、若しくは地域・学校単位で、実情に応じた可変性のある学級編制を可能にすること。

＜県内における弾力的運用実施校＞

中学校：5校 例）数学のティーム・ティーチングの充実

小学校：4校 例）初任者をチーム担任制の一員や、教科担当者として配置

＜素地形成段階である小学校低学年への少人数指導の充実（モデル事業）＞

県内モデル校：2校

②教員の指導力向上

○「とっとり学力向上支援チーム」による学校支援（別紙3）

学力向上支援員（元校長等）と県指導主事で構成する「とっとり学力向上支援チーム」を県教育委員会内に設置し、継続的・重点的な学校訪問を実施することで、若手教員の育成、授業改善による指導力向上を図る。

＜学力向上支援員の実績及び予定（6月現在）＞

県内の小・中・義務教育学校77校を訪問し、学校の状況把握や、教員の授業づくりについて指導助言を行った。

支援例：中学校数学の授業を参観し、数学担当教員と授業づくりについて協議した。

若手教員が在籍する学校に一定期間訪問し、授業計画段階から助言を行い、その授業を参観した後にフィードバックを行った。

③基礎学力の定着

○到達度評価問題の結果を活用した学力向上（別紙4）

県教育委員会が作成する「単元到達度評価問題」等を、C B T方式により定期的に配信し、各学校において、児童生徒の理解度の確認につなげ、定着が不十分な内容を繰り返し指導することで基礎学力の定着を図る。

＜対象学年及び実施教科＞

小学校4年生から中学校2年生までの算数・数学で実施（令和9年度から国語を追加予定）。

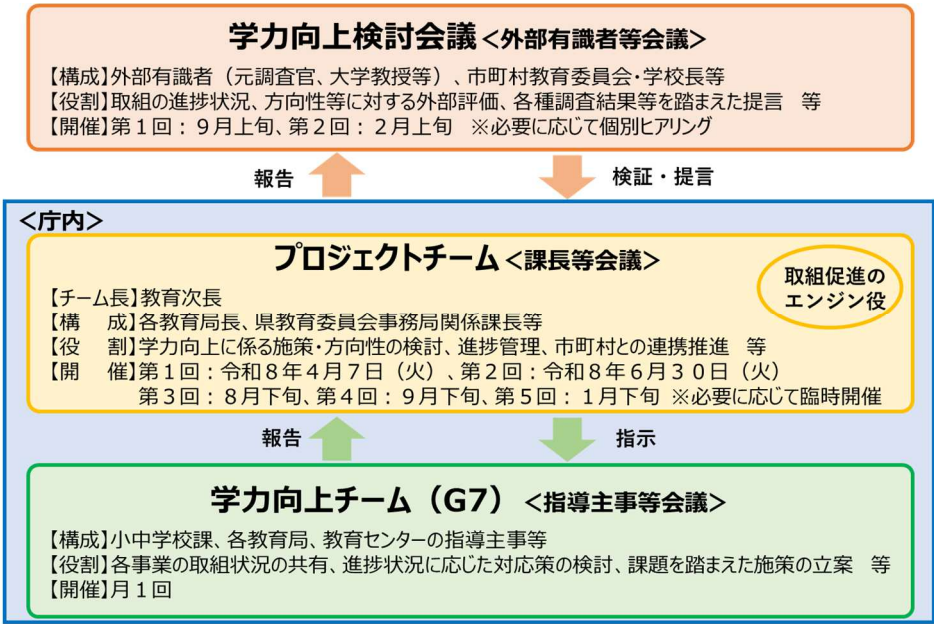
＜実施日＞

	実施期間
第1回	令和8年8月24日（月）から令和8年9月4日（金）まで
第2回	令和8年11月24日（火）から令和8年12月4日（金）まで
第3回	令和9年1月25日（月）から令和9年2月5日（金）まで

＜結果返却後の流れ＞

- ・各学校で集計支援ツールを活用して帳票を作成。（正答数分布、個人結果一覧、個人結果票）
- ・小中学校課から帳票の見方、県全体で課題のあった問題を取り上げて授業づくりのポイント等を示す。
- ・各教育局からそれぞれの結果に応じて、分析方法や手立て等を示す。

(3) 推進体制の強化



学びの改革推進プラン

令和8年度版

【別紙1】

社会の創り手の育成

ウェルビーイングの向上

【重点目標】自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成

資質・能力の三つの柱
をバランスよく育成

基礎学力の
定着

活用する力の
向上

主体的に学ぶ
態度の育成

「主体的・対話的で、
深い学び」の実現

◆基礎的・基本的な内容の
理解・習得
活用する資質・能力の育成

誰一人取り残さない授業づくり

全国学力・学習状況調査等を活用し、指導と評価の一体化を図ることを通して、すべての児童生徒が確実に知識を理解・習得し、活用する資質・能力を身に付ける授業の実践

子どもたちの未来を支える教員支援事業

子どもが「わかる」授業
すべての子どもが伸びる授業

◆生涯を通じて
主体的に学び続けるために
必要な資質・能力の育成

児童生徒が自ら学び取る

児童生徒が自ら学び方や学習ペースを選択して主体的に学習を進めることで、個別最適な学びを充実させ、児童生徒の可能性を最大限に引き出す学習を展開

とっとりサキドリ研究校推進事業

予測困難な社会を生き抜くために必要な資質・能力

ととりの「学ぶ力」パワーアップ総合プロジェクト事業

子ども一人一人の学力を伸ばすための教育データを活用した学力向上推進事業

◆教育データ（とっとり学力・学習状況調査等各種調査）の利活用

教育DXの推進

R7全国学調において全学年全教科で全国平均正答率を下回り、全国平均との差も過去最大

学力向上検討会議（有識者）等からの意見を踏まえた課題整理・対策検討

「全国学調」+「とっどり学調」から見えた課題

①学校の組織・指導体制

- ・教員個人の力量に依存した学習指導。
- ・学校の小規模化、新卒教員の急増。

②若手を中心とした教員の指導力

- ・「授業がよくわかる」と回答した子どもの割合が減少。
- ・子どもの理解度の見取りが不十分。

③子どもの学力格差

- ・全国と比べ、下位層の割合が高い。（約3割）
- ・基礎学力の定着が不十分。

個々の教員の力量を伸長させつつ、組織的に学力を向上させていく仕組み・支援の見直しが必要！

＜対策の3つの視点＞「学校の組織・指導体制」・「教員の指導力向上」・「基礎学力の定着」のパワーアップ

課題解決のための『3つの戦略』

【戦略1】

学校の指導体制パワーアップ



(1)小学校教科担任制への転換加速

→小学校中学年以降、主に担任による指導から教員の強みを生かした教科指導体制への転換を加速
※得意教科を持つ教員の育成、加配教員の増

(2)組織的な学習指導体制の構築

→学校等の実情に応じたチーム担任制・複数担任制の活用により、新卒等若手教員の入職・成長を支えとともに組織的指導体制の構築を推進

【戦略2】

教員の指導力パワーアップ



(1)学校訪問による指導力向上

→県指導主事と校長OB等による「学力向上支援チーム」を設置し、アウトリーチによる学校支援を強化

(2)教員研修の強化による指導力向上

→県内外の有識者等から年間を通して学ぶ専門研修を実施し、国語・数学・英語の核となる教員を育成

(3)中学校数学を対象とした指導力向上

→中学校教育研究団体の数学部会と連携し、授業改善に向けた重点的な取組を推進

【戦略3】

基礎学力パワーアップ



(1)MEXCBT(メクビット)等を活用した基礎学力の向上

→県教育委員会が作成してきた「単元到達度評価問題」等をC B T方式により実施
→全国学調の過去問題や県の「単元到達度評価問題」等を、授業や隙間時間等で活用促進

(2)C B T方式導入に向けた対応

→タイピングアプリの活用、タイピング大会の実施などタイピング能力の向上を支援

＜推進体制の強化＞

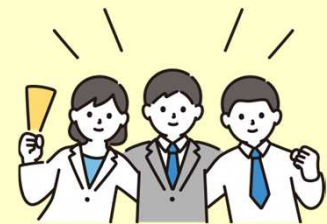
- ・学力向上検討会議（外部有識者等）による取組評価・助言
- ・教育委員会教育次長をトップとするPT設置、関係課長会議・担当者会議による取組推進・進捗管理

若手教員等の指導力向上に向けて、学校支援体制を強化するため、県教育委員会内に指導主事と学力向上支援員（校長等の学校管理職経験者）で構成する「とっとり学力向上支援チーム」を設置し、継続的・重点的な学校訪問を実施する。

「とっとり学力向上支援チーム」の新設

県教育委員会（小中学校課1名、各圏域の教育局3名）に、新たに「**学力向上支援員**」を配置
指導主事と学力向上支援員で支援チームを結成し、**学校訪問体制を強化**

⇒ 従来の学校訪問による指導助言に加え、学力向上の取組や若手教員の育成等への支援を希望する学校に対して指導主事や学力向上支援員を派遣し、**継続的な伴走支援**を実施



➡ 若手育成に視点を当てた「**教員の指導力向上**」・授業改善による「**児童生徒の学力向上**」

【県教育委員会】

「とっとり学力向上支援チーム」

小中学校課	東部教育局	中部教育局	西部教育局
指導主事	指導主事	指導主事	指導主事
学力向上支援員4名（各機関1名ずつ配置）			

<主な役割>

小中	指導主事	・各教育局の訪問サポート・後方支援 ・専門教科における全県的な学校訪問・指導助言
	学力向上支援員 （会計年度職員）	・各局に配置する支援員の統括、進捗管理 ・学校訪問による指導助言 ・元校長等の経験を活かした学校管理職への助言、若手教員への支援
教育局	指導主事	・各圏域の所管する学校への訪問・指導助言
	学力向上支援員 （会計年度職員）	・学校訪問による指導助言 ・元校長等の経験を活かした学校管理職への助言、若手教員への支援

訪問支援

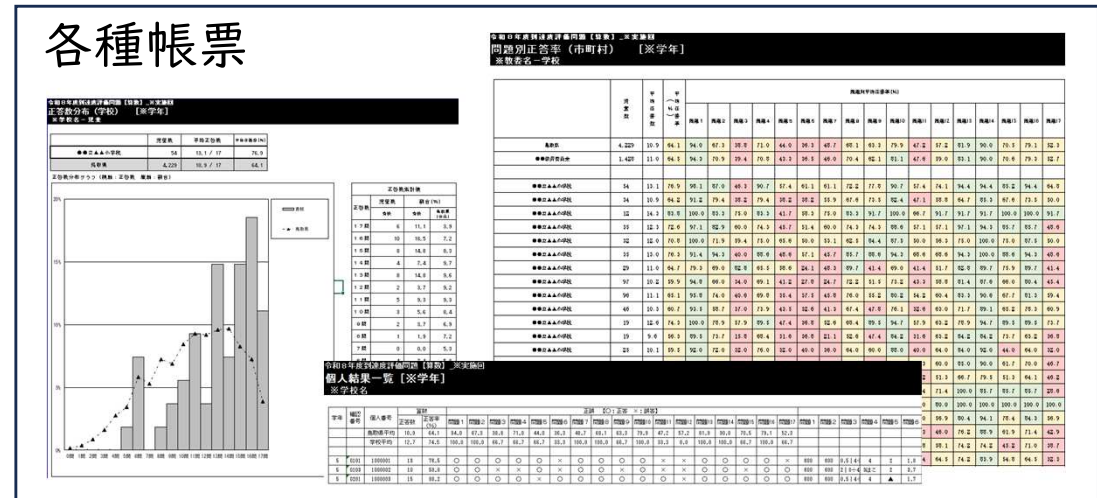
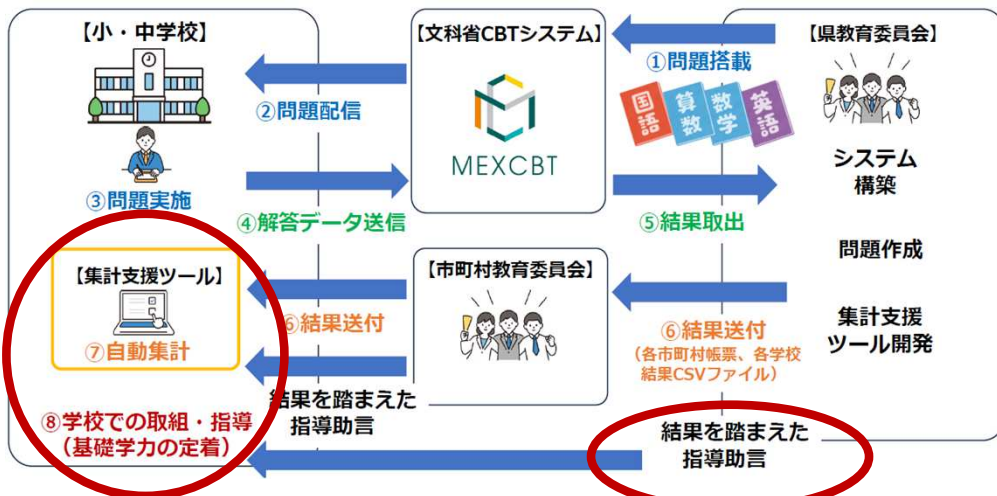
【学校】



- **授業力向上への支援**
各学校に対し、授業改善に向けた指導助言等を実施。
- **学力向上の取組を進める学校への支援**
学力向上の取組についての助言を希望する学校に対して、学校の課題に応じた重点的な支援を実施。
- **若手教員の育成に向けた支援**
一定期間、学力向上支援員を学校に派遣し、若手教員の授業づくり等を継続的に支援。
- **各種データの共有・提供、分析・活用支援**
全国学調やとっとり学調の結果分析等を支援。



「到達度評価問題」の結果を活用した学力向上 【別紙４】



個に応じた手立てによる基礎学力の確実な定着のために

[illegible]

①到達度評価問題の活用方法について解説する

③日々の授業改善 につながる資料や 動画を提供する

④各学校の結果
をもとに、課題が
見られた学校に対
する訪問支援を実
施する

[illegible]

②県集計結果において課題が見られた問題を取りあげ、指導のポイントについて解説する

令和8年度
全国学力・学習状況調査を
活用した授業づくり研修会

— 小学校 算数 —

鳥取県教育委員会

⑤県教育委員会が作成した、出題問題に対応した**学習資料**を提供する

The image shows the front cover of a mathematics problem set book. The cover has an orange background with a faint grid pattern. At the top, the author's name '高田裕子 (たかた ゆうこ)' is printed in a small white box. Below this, the title '算数単元に到達評価問題集' is written in large, bold white characters. To the right of the title, there is a black rectangular box with the text '中学館 数学' in white. At the bottom of the cover, there is a blue horizontal banner with the text '北海道教育大学付属札幌市立中学校 数学部' in white. The book is shown at a slight angle, revealing its spiral binding on the right side.